

1. 水の学校とは・・・



- 2014年（H26）にスタートした、水に関する様々なテーマを取り上げ、**楽しみながら理解を深め行動につなげる**参加型連続講座で、毎年30名ほどの受講生が参加しています。
- WS形式で各回の体験や見学を通して気がついたこと、学んだことを共有します。
- この気づきの場から、新たな発見を見つけることも多々あります。皆の視点の違いにビックリ。

H29年度の講座内容

1

6/17(土)
午後1:00~4:00

「水の学校 2017」開校式 ~もっと知ろう武蔵野の水、考えよう水とくらしの深い関わり

ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)

会場：スイングホール

「水の学校」についてのガイダンスを受け、参加型ゲームや活動で交流を深めましょう。私たちがくらす武蔵野市の水環境や世界の水事情を知り、人間と水との関わりを改めて考える講座です。

2

7/8(土)
午後1:00~5:00

武蔵野の水はどこから？~水道水が作られる場所を訪ねてみよう

集合：武蔵野市第一浄水場

私たちの使っている水道水はどのように作られているのでしょうか？蛇口の向こう側にある武蔵野市第一浄水場と井戸を訪ねて、上水道の仕組みと特色についてお話をうかがい、武蔵野の水道の「現在」について考えます。

3

9/9(土)
午前11:30~午後5:30

使った水はどこに行く？~森ヶ崎水再生センター見学

集合：三鷹駅

武蔵野市からの汚水の一部を処理している、東京都下水道局森ヶ崎水再生センターを訪ね、下水処理の工程に沿って施設を見学し、私たちの生活排水のゆくえを追います。

4

10/14(土)
午前9:00~午後5:00

雨のめぐりから考える、武蔵野台地の地形・湧水・川~仙川・野川と国分寺崖線

講師：神谷博氏(水みち研究会)

集合：三鷹駅

市内を流れる仙川は、野川を経て多摩川に注いでいます。野川の源流である国分寺から、崖線をたどりながら、湧水、雨、まち、下水道のつながりやまちの成り立ちについて知識を深めます。

5

11/18(土)
午後1:00~5:00

まちを守る下水道施設~武蔵野市内地下施設見学ツアー

集合：三鷹駅

私たちが生活する上で普段は見ることのできない、市内の下水道施設の見学をします。足元から生活環境を守っている下水道施設の役割を知り、私たちの身の回りの水環境についての知識を深めます。

※雨天の場合は内容を変更いたします。

6

12/16(土)
午後1:00~4:00

修了式・最終講座 「水の学校」から始める武蔵野の未来の水

ファシリテーター：「水の学校」名誉校長 橋本淳司氏(水ジャーナリスト・アクアスフィア水教育研究所プロデューサー)

会場：スイングホール

これまでの講座を振り返り、感じたことや考えたことを共有します。「水の学校」で得た経験や知識を、くらしに活かし、より多くの人に伝えるためにどんなことができるか考え、武蔵野の水の未来についてアイデアを出し合ひましょう。



平成27年度 第8回循環のみち下水道賞・国土交通大臣賞受賞

- 下水道の役割、重要性、魅力、可能性などに気づき、共感し、行動してもらったための効果的な広報活動や環境教育の取組として、受賞
- この受賞は、第1期の修了生で、サポーターとして活動をはじめたメンバーにとっても励みになったと感じています。

平成27年度（第8回）国土交通大臣賞（循環のみち下水道賞）

広報部門

水の学校

東京都武蔵野市



水環境啓発パンフレット
昨年度受講生から「周りの人に伝えたい」と思ったことや意見をまとめて、それを基に作成しました。



昨年度連続講座の様子
水源・水再生センター・水がつくった地形のまちあるきなど、多岐にわたるプログラムでした。

PRポイント!

よりよい水環境のために、各自ができること、人に伝えたいことを話し合い、市民活動へつなぐことを目的としています。6回の講座の中で、普段使っている水がどこからやって来て、使った後どこに行くのか、上下水道の課題、まちの地形と暮らしとの関わり等について、水源地の森や水再生センターなどの現場を見て、楽しく学びます。

修了生が翌年度以降の講座の企画・運営に関わることができ、今年度の講座内容にも意見が反映され、イベント等の運営にも関わっています。他部署や他自治体、都下水道局、大学、NPO等と連携して事業を行っています。

Key Person



市内に下水処理場がないこともあり、一般市民や親子向けに、市外の水再生センターへのバスツアー等を実施していましたが、参加者の偏りや、市民の行動につながる啓発事業となっていないのではという課題がありました。

自分の生活とのつながりが見える、面白くてわかりやすいプログラムを毎回考えるのは簡単なことではありませんが、とても勉強になります。

「市民活動を育てる」という目標のハードルは高いですが、講座を始めてみて、受講者の意欲がとても高く、水やまちへ関心を持ち、活動したいと考えている市民が予想以上にいらっしゃる事がわかり、今

2、水の学校サポーターとは

- 「水の学校」修了生で構成されています。
- 修了生が次年度以降の「水の学校」の企画運営に関しても、市職員ともミーティングなどで自由に意見交換しています。
- あくまでも修了生で、卒業生ではない！いつになっても卒業できないみたいです。

サポーターの企画により実施、当日も運営に携わる

水の学校オープン講座：**小学生**
のための浄水場見学&水質講座
(平成28年8月23日(火曜日)、
武蔵野市第一浄水場にて)



水の学校オープン講座：**地下**
25mの地底探検と玉川上水に出
かけよう! (平成28年8月12日
(金曜日)、小平ふれあい下水道
館、玉川上水、東京都薬用植物
園にて)



体制

受講生

下水道課



修了生が参加

サポーターミーティング
企画アイデア出しなど

サポーター

講座の運営支援
講座内での解説など
ニュースレター原稿執筆

講座全体の企画、運営
全体コーディネート
受講生の募集等

講座の実施



水の学校

これからの予定

サポーターミーティング

1/27 (土)

午後 1:00 ~ 4:00

市役所 111 会議室

来年度の活動に向け、これまでの講座で出たアイデアを深めたり、「来年はこんなことをしたい!」という意見を出し合います。

これからの「水の学校」の講座やイベントを、一緒に考えてみませんか?

武蔵野市水環境連続講座「水の学校」2017とは?

「水の学校」は、市長のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割、水に暮らしの水を美しくし、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマを取りあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、4年目を迎えました。

連続講座レポート 第3回 使った水はどこに行く?
～森ヶ崎水再生センター見学～

9月9日、日本の水再生センターと呼ばれる森ヶ崎水再生センターの見学へ行きました。

森ヶ崎水再生センターは、東京都の区約4分の1及び武蔵野市を含む多摩地域の野川処理区等の下水を処理している最大の水再生センターです。今回の見学の流れは以下の通りでした。

①生物反応槽の監視室 ②第一脱泥池 ③第二脱泥池 ④高度処理施設 ⑤放流きょ

知れた水は羽田空港近くの東京湾に放流しているとのことでした。

①下水の熱利用(冷暖房に利用) ②再生水の利用(森ヶ崎、空浦、有明) ③水洗トイレ洗浄水(センター内) ④下水道のもつエネルギーの有効利用(処理水活用の活用)

武蔵野市の水道水は美味しいと評判ですが、汚水は東京都の水再生センターのお世話になっていることを武蔵野市の水を利用してはいる住民等の人たちは理解して、無駄に水を流さないように注意してほしいと思いました。

アイスブレイク・レポート

今回の目的地である森ヶ崎水再生センターへ向かう車中、参加者全員が自らの「水に関するエピソード」を紹介しました。部活終わりの水道水が何よりも美味しかったこと、血が気になるようになったこと、8月に開催された下水道見学の楽しかったこと、夏に雨で浸透マスの見せりやしてもなかつたこと、ケリラ農園に緑が必要なこと、昔話から水の大切さや異常気象まで、様々な「水」に関する話が出ました。その中でも、異業連合での下水道設計の話は、なかなか聞くことのできる大変興味深い話で

受講生の声より

「下水を流すのにすごい工費がかかっているのを知らず、価格とか設備とか手頃とか...」
「市内に処理施設を持たない市として関心と生活排水への配慮を促された。」

武蔵野市の下水をきれいにして、自然へ

水再生センター見学の後、「友人・家族に伝えたいこと」をグループ別に全員で討議しました。参加者からは次のような声がかれました。

①水再生センターの役割の理解できた。私たちが汚した水を再生して自然のサイクルに戻さねばならないことが分かった。7割程度かけて武蔵野市の汚水(野川・神田川)は森ヶ崎に到着する。

②以前の処理施設を捨てず他地域に依存する私たちは、節水を心がけよう。

また、設備の一角には、ビニール製の「ホテル倉」が取り付けられていました。

野市(良島水再生センター)は、一日も早くホテル倉を廃す業務を整えることこそ、現在を生かすための務めのように思われます。

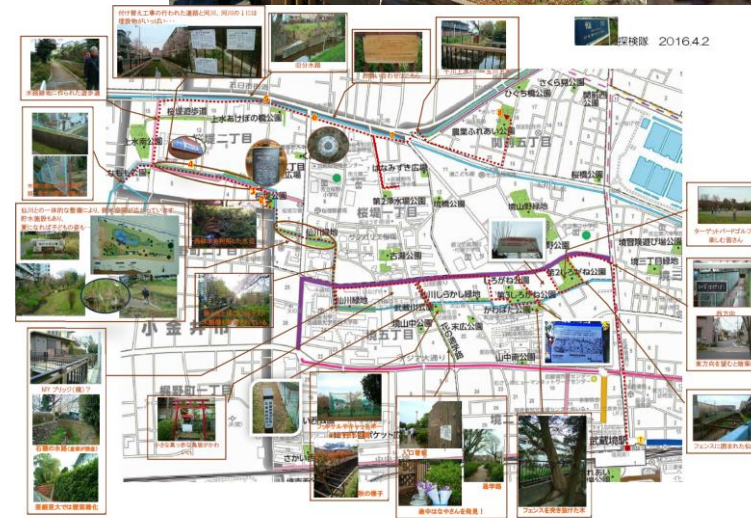
さらに、もっと知りたい！深めたい！ことを共有し、同じ興味関心のメンバーで集まり自主活動。

水の学校から派生した活動。自分のやりたいこと、を実践しています。

仙川探検隊



井の頭池かいぼり見学ツアー

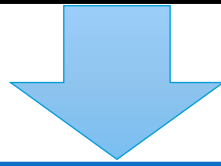


湧水めぐり、酒蔵めぐり、昔の水道など・・・
「プロジェクトWET」エデュケーター講習会資格取得講座

楽しくなければ続かない！

- 受講生の時は、**学校**で楽しみながら学ぶ。

サポーターになると.....



自分のやりたいこと・見たいことはオープン講座
や見学会・まちあるきなど 「大人の遠足」で！

自分の伝えたいこと・より知りたいことはステッ
プアップ講座や連続講座でなど 「大人の部活」
で！



楽しくないと・遊びがないと続かない！

8/25 クリーンセンター見学会&WS

サポーター向けにクリーンセンター見学会と仮称)エコプラザに関するWSを実施しました。

仮称)エコプラザに関するWS結果まとめ

どんな使い方

- 周辺施設との一体的な利用
- エコピットを音楽ホールに(音響施設になる・貴重な空間である)
- 近隣コミュニティセンターとの棲み分け
- 食事ができる(体育館にもクリーンセンターにも飲食できるところがない)
- 生き物を観察できる
- 子どもたちが遊べる
- 多世代が交流できる
- 清流を復活させ、ホテルを鑑賞できる

機能

- 熱水利用(ヘルスセンター・温浴施設・足湯)
- 調理室
- 目玉施設はなににかほしい
- 情報発信基地
- コーディネート機能(団体等のプラットフォーム)
- 環境関連の相談窓口
- 人材(コーディネーター)
- 小平の下水道館のような参加型博物館
- 地産地消レストラン
- 駐車場・駐輪場
- 屋上菜園・屋上緑化
- エコ機能の見える化(太陽光発電、雨水利用等)
- 音楽ホール

運営

- 利用方法を分かりやすく
- ルールはゆるやかに
- Ekoというとしてつけたような名称でなく
- 施設名称は公募
- 委託業者に丸投げで業者任せにならないように
- 臨機応変な対応(利用者の声を聞き入れる)
- 何に利用するか、何があるか分かりやすく発信

こんな施設になってほしい

クリーンセンターのコンセプトが雑木林なら水と風。
武蔵野の四季を感じられる。
(清流+まちなみ)

四季の風景がある

マルチフルな文化施設

ファミリー世代も高齢者もみんなが来るエコプラザ

展示だけでなく、参加型施設

自由に、もしくは単純なプロセスで利用できる

地域の魅力のPR施設

武蔵野の風景と童謡を併せ持ったメルヘン館

音楽を楽しめる

本物・真実を見る眼を養う
地域を知る
癒しの空間

3、今後の課題

- 「水の学校」は市の計画では5年事業であり、来年度節目の5年目を迎えます。
- 水の学校サポーターは、修了生の有志からなっており組織だった活動団体ではなく、活動拠点もありません。みんなで気軽に集まって話せる場があるといいね。

■ 大人の部活の展開？？？

